| | |
|---|---|
| 著者 | 信時裕子 |
| タイトル | オープンアクセス　海道東征 |
| 掲載書(誌)等 | 交声曲　海道東征　[プログラム] |
| 発行所 | |
| 年月(日) | 2018.02.02 |
| 備考 | 主催：産経新聞社　会場：ザ・シンフォニーホール（大阪） |

URL　https://nobutoki.com/plugin/databases/detail/26/57/694#frame-57

注：　PDF は著者最終版

オープンアクセス　海道東征

信時裕子（音楽学）[1]

信時潔が 1965 年に没してから 50 年以上が過ぎ、「著作権保護期間」は満了、作品はパブリックドメイン、つまりみんなのものになった。保護期間満了後、国立国会図書館デジタルコレクションでは、「海道東征」管絃楽総譜（共益商社書店,1943）[2]などの楽譜デジタル画像がインターネット公開されている。

そして遂にこの秋、東京藝術大学附属図書館・信時潔文庫の貴重楽譜データベース(試行版)が、インターネット公開された。[3]これは、同文庫に含まれる資料のうち、自筆譜、筆写譜、初版譜を中心にデータベース化したもので、著作権上問題がないものは、画像も公開している。

【写真 1】は、「海道東征」の自筆スケッチ(信時文庫/貴重楽譜/0117)の作品資料情報とその画像である。ページの使用順も複雑で、第八章などは完成に至っていない。この画面のリンクをたどっていけば同資料の表紙や他の作品も確認することができる。

【写真 1】

【写真 2】は、作曲者の手元に残されていた自筆フルスコア(信時文庫/貴重楽譜/0361)で、歌詞やヴォーカル部分は妻ミイがヴォーカルスコアから書き写した箇所があり、管弦楽器は潔の自筆である。第一章は、最初はペン書きで「肇國」とあったところを二本の棒線で抹消し、鉛筆で「高千穂」と書き込んでいる。北原白秋の詩の成立、信時の手に渡った時期はいつなのか、タイトルや詩の訂正は、いつ、どのように伝えられたのだろうか。ソロ部分には、千葉[静子]、中山[悌一]、柴田[睦陸]など、当時の東京音楽学校の学生の名前が書き込まれている。第四章「御船謡」の冒頭（f.28r）の楽器名は Klav.（Arpa）、すなわちピアノ（ハープ）の書き込みが見られる。

【写真 2】

祖父・潔自身はこんな乱雑な手書き譜などを公開されて戸惑っているだろうと思うこともある。しかし、最近話題になっている南葵音楽文庫が麻布飯倉にあった頃、音楽堂の演奏会に出演したり、ベルリンから持ち帰った楽譜を展覧会に貸し出したりしている。おそらく同文庫には何度も足を運び、諸大家の自筆譜も見ているに違いない。手稿譜を研究者や愛好家に公開する意義を、たぶん理解してくれるだろう。

「海道東征」の度重なる再演、かずかず出揃った CD などの音源とともに、オープンアクセス「海道東征」をご利用、そしてお楽しみいただきたい。

---

[1] 東京藝術大学附属図書館・信時潔文庫資料整理プロジェクトに研究スタッフとして参画
[2] http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1125350
[3] http://www.lib.geidai.ac.jp/nobutoki.html